

◎No.1 ブックトラック BOOK TRUCK



図書館で見かける本の運搬台、ワゴン車というか、移動式本棚のようなものです。図書館に就職した新人が一番最初に覚える業界用語かもしれません。

「そのトラック、持って来てね」

と先輩に言われて、あたりをきょろきょろ捜してしまうのは新人らしいものです。

「トラック」というのは荷物を運ぶ自動車であるトラックのことです。しかし世の中には、室内を走行するトラックはあまりないし、陸上競技場にある走行路(この場合は TRUCKではなく TRACK です)を思い浮かべる人もあって、部外者に運搬台車であることを理解してもらえないことがあるようです。

どこの図書館でも何台かは持っている必需品で、返却された本を本棚へ戻す時や、買った本の登録作業をする時にも使います。色はベージュの定番だけでなく、黄色や緑のカラフルなものもあり、棚は3段のタイプや2段のタイプなど、様々あります。このブックトラック、スリムな形に似合わず結構力持ちです。体重41kgのか弱い私でも、148kgの朝青龍や150kgの琴欧洲ほどある重い本でも楽々運べるのです。

◎No.2 電波時計

大学というところは、けっこう時間に対してシビアなところのようです。

学生への講義が行われる講義室には正確な電波時計が備え付けられています。入学試験などの会場になるためでしょう。

電波時計が一般的になる前は、学内にあるたたくさんの時計を正確にするために親子時計というものが使われていました。親子時計の親は時報等に合わせて定期的に自動修正されます。子時計は、親から信号を受けて調整されます。

図書館にもこの親子時計があります。分館ではいまだに現役のようです。

最近ではあちこちで電波時計が使われています。図書館内の時計も主流は電波時計になりつつあります。

本館の親時計（現在は使われていません）と、図書館内の時計（電波時計）

